

(再開 午後1時45分)

議長 (勝山 正)

休憩前に引き続き会議を開きます。

6番 丸山邦久 議員。

(「はい、議長。6番。」の声あり)

(6番 丸山邦久 議員 登壇)

1. 少子化対策について

6番 丸山邦久 議員

それでは、発言を許されましたので、私の方から3項目にわたって質問をしたいと思います。

具体的に質問に入る前に2点お願いがございます。私、実は、ばかしかひかないという夏風邪をひいてしましまして、ほぼ治っておるんですが、気管支のところはまだムズムズするんですね。医療機関に行って、これが伝染性のものではないことは確認しておりますが、万が一せき込んだ場合はご容赦いただきたいなと思います。

それと2つ目ですが、昨日、関議員の質問で、村長が「前振りが長くて質問がわからなかった」という発言がございました。やっと村長も前振りが長いとわからないことがわかってくれたのかなと、私は非常に嬉しく思いましたので、ぜひ村長も前振り短く、余った時間を有効に、大きな声でゆっくりと答弁していただけると、私、非常に助かりますので、2点よろしくお願ひしたいと思います。

それでは具体的な質問に入らせていただきます。

1項目目、少子化対策についてであります。

木島平村の出生数は、令和元年度15人、令和2年度20人、令和3年度20人、令和4年度12人、令和5年度13人となっています。

昔の話をしますと、私が中学校に入学したとき、私の学年、1学年は164名いました。小学校4年の4月、糠塚分校から新たに14人の同級生が加わってきました。

私、昭和30年生まれですから、生まれて69年経つわけですが、今の出生数を見ると、糠塚分校、糠千と言われる糠塚千の平の地区で生まれた子どもにも木島平全体が追いついていない。これ、人数だけ推測しますと、これ70年経ったら今の糠塚千の平ぐらいの人口しかここにいない可能性も出てくるわけですね。本当に消滅可能性自治体に入っていますけれども、笑い事ではない、危機感を持ってやっていかなきゃいけないなと思います。この状況を改善するためには、若者や子育て世代の流入が必要不可欠だと考えるわけでありませう。

そこで伺います。1点目です。

若者や子育て世代が我が村に流入してくるために、雇用の場が必要と考えるが、村長の考えはいかがでしょうか。

議長 (勝山 正)

日墓村長。

村長 (日墓正博)

丸山議員のご指摘のとおり、若者や子育て世代の皆さんが移住、そしてまた定住を図るために、雇用の確保が重要な要素だと考えております。安定した雇用が地域にあれば安定した生活にも繋がり、定住しやすくなるということではありますが、また、雇用もあることによって地域も活性化していくものと思います。

しかしながら、村内で雇用の場を、前にも申し上げましたが、大きな工場誘致等を増やしていくのは難しい状況にあるため、リモートワークの環境整備であったり、それから、創業支援ということ

起業のための支援を行っておりますが、これらについては、また継続をしていきたいと考えております。

そしてまた、村内企業等が新たに若者を雇用する事業継承、後継者対策も含めて、新たな支援策が必要なと考えております。またさらには、やはり雇用のある近隣市町村への通勤しやすい環境も整える必要があると考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

先ほど、私「消滅可能自治体」と申しましたが、飯山も山ノ内も栄村も入っております。なぜか野沢温泉村は入っていないんですね。この入っていない理由、これは地場産業がしっかりしている。それに尽きるのではないのかなと思います。

やはりここで、この村の産業を新たに起こす、また、今、営業を営んでいらっしゃる企業さんの新規事業とか、そういうものを増やして雇用を拡大していく。そういう村としての考え方がなければいけないのではないかと思います、村長いかがでしょうか。

議長（勝山 正）

日臺村長。

村長（日臺正博）

その点については、そのとおりで思っております。

この近隣で消滅可能自治体に入っているところが多いということではありますが、そうは言ってもやはり、雇用の創出そのものについては、やはり村単独というより、やはり地域として雇用の場の創出を考えていくことも一つの方法かなと思っておりますのでよろしく申し上げます。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

先ほどの答弁で「大企業や大きな工場の誘致は難しい」っておっしゃいました。

村長に伺います。そういう誘致のことをやったことがあるんですか。

議長（勝山 正）

日臺村長。

村長（日臺正博）

以前にも申し上げたかもしれませんが、これはコロナ前の話であります、あるところにそういう話をしましたが、当時も人手不足の時代でありまして、人手不足、言ってみれば「人口減少地域のところに行って、ちゃんと人が集まるんですか」というようなことを逆に言われてしまったというようなこともありました。

それ程多くそういう声をかけたわけではありませんが、今ある村の中の企業でも規模を拡大したいとか、そういうことがあれば、村としても協力をしていきたいと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

本当に村のことを思うのであれば、何社行ったかわかりませんが、そこで諦めるのではなくて、ここはどうだ、あそこはどうだって、日々、考えるのが私は村長ではないかと思うんです。途中で諦めてしまうってことは、もうこの村の発展を諦めると一緒ですから、そこはちょっと考え直していただいて、思いつくところ、どんどん声かけてやっていただきたいと思うんですが、どうでしょうか。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

先ほど申し上げましたとおり、また、雇用の場の創出に向けて、村としても私自身もしっかり取り組んでまいりたいと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

なかなか明快で良い答えだなと思います。ぜひ、実のある答弁をしていただきたいと思っております。また、この答弁の結果については、私も、追跡調査ではありませんが、結果を調査してまいりますのでよろしくお願いいたします。

2点目の質問にまいります。

若者住宅が必要なのではないかと。地域おこし協力隊の皆さんと懇談したときに「一軒家は広すぎる」「若い人が一人暮らしは一軒家が広すぎる」、また「女性がその一軒家に住むのは不安がある」という声が多くございました。「集合住宅、アパートとかそういうものがあれば、もっと村に来て住む人がいる」これは、協力隊の皆さんの声であります。

そういう声も多かったものですから、そういうものを実際にお考えになるかどうか伺います。

議長（勝山 正）

小松建設課長。

建設課長（小松宏和）

現在、村では、民間アパートの建設促進に向けて、事業実施者に補助金により支援する事業を推進しています。

建設にかかる補助限度額を倍増するなどし、令和6年度予算にも計上し、即実施できる体制で推進している状況でございます。事業概要や、来年度以降の取組につきましては、昨日、江田宏子議員からの一般質問「賃貸住宅や単身用の小規模住宅への対応」でご回答したとおりでありますので、よろしくお願いいたします。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

木島平村の行政について常々思うんですが、非常に他力本願が多い。要は、自分がやるのであれば、すぐにでも始められる。でも、こういうものを用意しています、ああいうものを用意しています、皆さんどうですかと言っても、のってくる人がいなければ始まりませんよね。

そうではなくて、村でやっぱりある程度のそういう集合住宅みたいなものを用意していくべきではないのかなと思います、いかがですか。

議長（勝山 正）

日碁村長。

村長（日碁正博）

これについては、昨日、江田議員のご質問にもお答えいたしました。基本的にはやはり村内で民間事業者が経営をすることによって、言ってみれば民間の活力が高まる、そういうことを期待していたわけですが、昨日もお答えしましたが、難しい状況もあるということで、来年度以降、実施計画の中で検討しながら、村が主体となって住宅の整備等を進めていきたいということについて、昨日申し上げたところであります。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

ぜひ、そのようにお願いしたいなと思います。

3点目にまいります。

軽井沢の風越学園には、その学校の教育理念や教育方針に賛同して、親子で軽井沢に転居してくる事例が多いと聞きました。

木島平教育でそのようなことはできないかどうか、教育長に伺います。

議長（勝山 正）

関教育長。

教育長（関 孝志）

丸山議員のご質問にお答えします。

2019年に軽井沢風越学園が開校されました。とても話題になっておりました。

公立学校とは異なって、学校法人、私立ですので、丸山議員が言われるように、特色ある学校運営が求められ、またそれに賛同した保護者がわが子を通わせるというふうになっています。3歳から15歳までの幼稚園から義務教育学校に通う生徒が12年間そこで学んでおります。学校法人ですから、当然、独自の教育方針、カリキュラムで運営されていると承知しています。

ただ、風越学園の特徴的な取組を本村の小・中学校の教育活動を重ねた場合に、すごく参考になるところたくさんあります。

5点ほど重要なポイントがあるんですが、探究の学びというのがあります。それについては、小中学校で行っている協同的な学び、質の高い学びを追求する真正な学び、学習をすることと重なってくるなと思っています。

「暮らしと遊び」という項目があります。これは、幼児期の教育について語っているところですが、うんと遊ぶ体験的な学習をされています。これについては、本村では、保育園の「やまほいく」をもっともっと自然に浸り込む環境にしていくことが必要かなと、これも重なっているところです。

3つ目には、「土台の学び」というのがあります。本村で大事にしている協同的な学び、他者と協働して学習していく、わからないことをとことん追求していく、このところはすごく重なっている。ただ、この学習については、風越学園は十分に時間が保障されているという利点があります。

4番目の「環境と繋がる」という取組があります。これについては、本村に例えれば、小学校では生活科、総合的な学習、中学校では未来塾のような自ら体験しながら課題を解決していく、そういう活動が風越学園には保障されている。本村にもありますので、そこを充実させていくことが必要かなと思います。

「ホーム」というポイントがあります。これは連携の活動をいつているんですが、本村には保・小・中の連携がありますし、異年齢との交流がある。こういうふうにと考えるととても重なっていますが、ただ、時間的にそのことを意識してやっているか、やっていないかの違いかなと思っています。

教育理念として参考にしたい点、私もこれはそうだなと思うのですが、子ども中心の教育、一人ひとりが自立して大人になっていくために自分をつくる、自分でつくる、そういうことを大切に、子どもが決めたことを大人は認めて、その実現の機会を保障していく。まさにこれは、学校教育で目指しているところです。本村にも、そういうふうになってほしいと願っています。

そういうところは、木島平小・中学校で大事にしているところ同様なので、更にそういうことを反映できるように、今後、進めたいなと思っています。

ただ、地域の連携、コミュニティ・スクールとか、地域コミュニティが存在する木島平村ですので、その特徴を村内、村外に、子供たちの教育活動として幅広く発信していく必要があります。

それが、流入に繋がるかわかりませんが、風越学園の教育に参考にする部分がたくさんあると感じています。ですので、本村の小・中学校においても、それはこれからも重なる部分については、更に充実させていこうと思っています。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

以前にも、この風越学園については質問したことがあるんです。教育長は違いますけど。当時に比べて、とても前向きで私はよかったなと思います。

教育のことに関して、教育長に私が抗うような知見は持っていませんので、ぜひ、教育でこの村に人を呼べるような、世間に対して誇れるような教育を実現していただきたいなと思います。

もう一つ、昨日、関教育長の答弁の中で、「アピールしたらどうだ」と江田議員が言ったと思うんですよ。そのときに「地元の認識が大事だ」とお答えになった。逆もあるんじゃないのかなと思います。

というのは、私は短期間ですが、塾の講師をしていました。木島平教育がさほどに素晴らしいとは思っていませんでしたが、ある人が「木島平の教育は素晴らしい」と。これは、外から来た人ですから、皆さん大体、具体的に名前を知ってらっしゃるんですよ。え、そうなのって思いましたね。

この村の人の特色と言えるかどうかわかりませんが、案外、外から来た人の言うことをよく聞くんですよ。本当に。議員で、この会社、駄目じゃないのと言ってもなかなか聞いていただけない。でも、私達はこんな素晴らしい会社ですって言うと、ああそうですかって聞いているような感じがするわけですね。やっぱり外から見て、ああそうなのって思う部分というのは確かにありますよね。

先日も協力隊の皆さんと話をした。そしたら、秋になって稲が黄色くなりますよね。一面、稲が黄色。これ我々してみれば全然見慣れた風景で、何の感動もないのかなと思っていたら、あれが素晴らしいと。そういう視点が変われば、やっぱり違う考え方もあるわけで、外からあれ素晴らしいねって言われたら、そのつもりになってみるから素晴らしいねって僕は思い直しました。

村民の人に、これはいいんですよって言っても、それが素晴らしくても、固定概念とか先入観を崩すというのは、なかなか容易じゃないと思うんです。

ですから、アピールも、まず木島平村民の認識を変えてからと言わずに、素晴らしいものは素晴らしいものとして、アピールしていただきたいと思いますが、お考えはどうでしょうか。

議長（勝山 正）

関教育長。

教育長（関 孝志）

風越学園が参考にしたある小学校があるんですね。私もそこに行ったことがあります。ちょっと道に迷って「この小学校どこですか」って聞いたら、年老いた女の方が「おら学校はあそこださ」っていうふうに言われたんですね。街中の学校でしたが、地域の方が「おら学校」というふうに呼んで親しんでいる、すごいなと思ったんです。

そういう地域性もありますが、本村においては、木島平小・中学校、保育も含めて「おら学校の子供達だな」となってほしいなという思いがあります。

ただ先日、文教大学と都留文科大学の学生さんが合同ゼミを行いました。ふう太ネットでたくさん放送されているんですが、最後に学生さんたちが感想を語ってくれていました。引率された先生方も感想を話されました。本村の自然、教育環境、子供さんいいなという、すごく前向きな感想を話されました。

今、丸山議員が言われたように、外からの方が私達が気づかないことを発信している、これから、そういうことも大事に取り入れていきたいなと思っています。すごく良い機会を与えていただきました。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

とにかく、私はこの村に人が入ってきていただきたいわけで、そのために本当に藁をもすがる思いで教育長にお願いしているわけですが、この村の良いところ、軽井沢にはないところ。海だって近いじゃないですか。軽井沢から海に行くっていったら2時間では行けませんよね。ここからだったら、高速乗れば1時間以内で海にも行ける。良いところは、探し出せばいっぱいあると思うんですね。ぜひ、教育長期待しておりますので、よそから見て、木島平の教育は素晴らしいと言っただけのようにやっていただけると嬉しいなと思っています。

それでは4番目にまいります。

山村留学で、学童・学生を増やすことはできませんかという質問であります。

実際に山村留学をやっているところで、人口が増え始めているところもあるようでございます。

何度も言って申し訳ないんですが、海士町です。海士町では、高校の入学者数が減ってしまって、都会に、この高校に行きませんかっていうことで、学生数を増やした。来ていただいて3年間学ぶうちに、海士町が気に入って定着する人も出てきている。そういうことがこの間、テレビでやっていました。

山村留学どうですか。検討いただけませんか。質問です。

議長（勝山 正）

関教育長。

教育長（関 孝志）

昨年、移住定住に繋がる可能性を見据えて、移住定住推進係と実施に向けて協議した経過があります。

本村の豊かな自然環境を生かした信州自然留学の取組として、子供たちだけを受け入れる山村留学で、親子留学、家族留学等を検討いたしました。

課題は、やはり受入れ先。山村留学交流センターを設置するとか、システムを作っていくということが課題となりました。

検討の際に、保育園留学事業を全国的に手がける会社、株式会社のキッチハイクとの打ち合わせを行いました。保育園留学のプラン作りから集客、そして、カスタマーサポートまで全てを行う会社ですが、金額が多額で、これは難しいなという結論を出しました。

現在、本村の子どもたちの受入れについては、村の移住体験住宅等も利用する方も含めて、保育園それから小学校、体験学習として受け入れています。

山村留学を推進し、学級の子どもたちが増加することで、多様な価値観に触れるという機会を保障するという教育ですが、ただ、木島平小学校の全校生徒は210人。まだまだ少ないといっても多いと思っています。中学校107人。複式学級であるとか、一学級が10人に満たないというところまでは至っていません。

ですので、山村留学制度を活用して、学級の子どもたちが増えることで、教育効果を期待するには至っていない状況であるので、現在のところは、それは考えておりません。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

今、小学校の人数が210人とおっしゃいましたか。ただそれは、あと4、5年もしたら、がぐっと減ってくるわけですね。この出生数を見れば。それまでの間に準備をして始めるってことはできないですか。

議長（勝山 正）

関教育長。

教育長（関 孝志）

5年後、10年後を視野に入れてやっていくのが教育だと思っていますが、現在は、そこまでは展望できていないので、一学級何人までが適正かということも含めて、現在は考えていないということです。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

受け入れる先がないっていうのもよくわかります。

ただ、もしそういうことが可能なのであれば、シューネスベルクだっていいんじゃないか。そのための改修費用だって、議員とすれば賛成する方向にいくんじゃないのかなと思っています。どのぐらいかかるか調査してみてもからの話ですが、施設がないと言うのだったら、そういう施設だってあり得ると、ほかにもあるかもしれない。

そういうことで、本当に、5年後、10年後、小学校、中学校の人数が減り始めるまでに、やっぱり対策というのは考えていくべきではないかなと思っております。これは質問ではありませんが、そのような認識で、また、前向きに取り組んでいただきたいなと思っております。

それでは、5点目にまいります。

私、いろいろ打つ手を考えてきたわけですが、村長が独自に、私が言った4点のほかに打つ手を考えていらっしゃるかどうかお聞きします。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

少子化対策、特に、子育て支援対策より以前の対策については、非常に難しいなというのが実感であります。先ほどもちょっと申し上げましたが、これから新たな対策として、村内の企業、新たに創業してもらう企業を支援することもあります。後継者対策も含めて、また、企業が新たに若者を雇用する場合に支援していく、そういうような施策も必要かなと思っております。

それからまた、やはり若い皆さんがそもそも結婚したいとか、子どもをもうけて子育てをしたいとか、そういうような雰囲気とか気持ちになる、そういうための取組が必要なんだろうなと。

そんなことで、やはりもっと若い皆さんの意見を聞く必要があるのかなと思いますが、これについては、なかなか村単独でやっても多分効果がないだろうと、例えば、それに基づいて出会いの場を作るとか、そういうふうにしても、村単独ではなかなか効果がないだろうと思います。そんなことで、やはりもっと広域的に市町村が連携しながら、そういう対策を図っていく、そのような取組が必要だと思います。

丸山議員、考えていることがあるということでもありますので、教えていただければ幸いかなというふうに思います。

6番 丸山邦久 議員

私、考えてるいことがあるって言いましたかね。そうですか。

お金もかけずに打つ手は、私は一つあるんですよ。それは人が人を呼ぶってことです。ここの首長の理念が素晴らしい、行っている政治が素晴らしい、人格が素晴らしいということであれば、私は人が来ると思う。そういうアピール力が一番あるのは村長だと思っているんです。一番のトップですから。それ全然お金かかりませんからね。効果もあると思いますよ。

そういうことは、村長はお考えになりませんか。自らが広告塔になって、私の魅力でこの村に来てくださいみたいな、そういうパワーは出せませんか。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

私にそういう魅力があるかどうかは別にして、そういう意味での情報発信が必要だろうと思います。そんなことで、今回、第7次総合振興計画の中でも「魅力発信」というのが重点プロジェクトに掲げております。それに沿って、私の方も微力ながらも情報をしっかりと発信できるように努めていきたいと思っています。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

ないものは作るしかないんですよ。魅力がないじゃなくて、魅力をつくる。これが基本ではないかなと思います。ないからないって言うていたら一歩も進みませんし、ないものは作る。そういう姿勢で進んでいただきたいなと思います。

2. 社会福祉協議会の在り方について

6番 丸山邦久 議員

それでは、2項目目の質問に入ります。

社会福祉協議会の在り方についてであります。

木島平村社会福祉協議会の収益の悪化が著しい状況です。令和元年度まで黒字経営だったものが、令和2年度2,150万円、令和3年度2,120万円、令和4年度2,520万円、令和5年度3,700万円の赤字となっています。4年で1億490万円もの赤字が出ています。

このままで推移しますと、あと4、5年で資金繰りができなくなるおそれがあります。社会福祉協議会の村での役割、存在意義は大変重要であり、大変な仕事であることは認識しております。

しかし、この事業収益、これは売上げに相当するものですが、事業収益に対する人件費割合は90%でありまして、仮に収益を改善しようとした場合ここに手をつけないわけにはいかない。私はそう考えています。ですが、社協では人件費の削減は行わないと、この間答えておりました。

企業であれば、企業じゃなくてもみんなそうですが、赤字に陥った場合、収益の改善を図るのは早いほどいいわけでありまして。もう4年も経っていますので、遅きに失しているということ言い方もできます。村長は、今後、社協をどのようにしようと考えていらっしゃるのか。

具体的な質問であります。収益の改善を要望するのか、または、社協の問題として黙認するのか、いずれでしょうか。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

社協の現状については、昨日、山崎議員のご質問にもお答えしたとおりであります。

村から社協に社会福祉事業の推進、そしてまた、介護予防事業の実施、ボランティア、心配ごと相談などの事業を委託し、村内で老若男女を問わず、村民の皆さんに対して事業実施していただいているところでありまして。そしてまた、村内で訪問介護や通所介護など、介護保険事業を担う事業所であります。

社会福祉協議会は、それぞれの自治体に一つあるわけでありまして、昨日も申し上げました。社会福祉協議会というのはやはり、村内の地域の中の福祉を担う。言ってみれば、最後のセーフティネットであります。

そういうことで、社協の安定的な経営については、村としてもしっかりと注視していかなければならないと思っております。その中で、先ほどありましたとおり、赤字の経営が続いているということでもあります。

赤字の中には、減価償却の部分もあります。減価償却の部分については、キャッシュには直接は影響がないわけでありまして、それ以外の部分も赤字ということで、先ほど、丸山議員の話にありましたとおり、人件費については、こういう介護職場での人手不足の中で人件費を削るとするのは、もうほぼできない状況であります。

その中で、介護を中心とした事業を継続していくためには、当然、社協の方でも取り組んでいただいておりますが、報酬の加算があるような、より質の高い介護に取り組んでいただくということにつ

いては、村としてもお願いしていますが、社協もその点についてはしっかりと取り組んでいただいて、そういう意味での経営改善に努力をしているということでもあります。

村としてはということではありますが、昨日も申し上げましたが、村の中の本当にセーフティネットとして、将来ともしっかりと安定的な経営をしていく中で、村民福祉の維持を図る、そういう立場からすれば、村とすれば、社協の安定的な経営のために財政的な支援もしていく必要があるだろうと。その辺については、状況等を村民の皆さんにご理解いただきながら、進めてまいりたいと思いますが、現状等を説明する中で、村民の皆さんにご理解いただけるものと思っております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

これ4年間も、2,000万、2,500万、3,700万赤字を出したら、通常の役員の考え方とすれば、俺、これ給料もらえないよなって思うような状況であるんです。

でも、なおかつ、こんな状況にあっても人件費の削減は行わない。人件費の削減はとても難しいですよ。それは私もよくわかっています。だけど、手をつけなくて、それで出てきた赤字そっくり村にもってくるっていう考え方には、どうも賛成できない。何らかの努力をしていただく必要は、私はあると思うんですね。

現に、飲食店を経営していましたので、確かに人手は欲しいです。でも、払える人件費というのは、全員に潤沢に払うわけにはいかない。やはりそこで、従業員の皆さんと話し合ってコンセンサスを得て、経営していくのは私は普通じゃないかと思うんです。

役員さんがやる気にならなくて、やれない現状なんですけども、やはり村だって、社協の基本金100万円は村の出資ですよ。言ってみれば、社会福祉協議会というのは、村の100%子会社みたいなものですよね。何の意見も言わずにただ赤字を出させ続ける、これは、ちょっと村長としてはいかななものかなと思いますが、再度、やらないならやらないでいいですけど、せめて、もう少し経営改善しろよぐらいの話はできないものですか。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

行政に対する一般質問の立場からすれば、社協の実際的な実務についてはこの場では申し上げませんが、現在の仕組みから言えば、収入のほとんどが介護報酬によるものであります。これは国の制度で、もう入ってくるのが決まっていると、そういう中での事業ということでもあります。そしてまた、そのほとんどの人件費については、ほぼ現場で介護に関わっている皆さん等の人件費ということでもあります。

最大限、村とすれば、経費の削減をお願いしているわけではありますが、実際に現場で介護報酬を得ながら介護にあたっている皆さんの人件費を削るとするのは、先ほど申し上げましたとおり、本当に介護職場の人材不足の状況で、それを今以上に求めるのは難しいだろうと思っております。

それ以外の面について、節約できるところは節約をお願いしたいと思いますが、先ほどありましたとおり、1,000万、2,000万、3,000万の赤字に対して、そこでできるものは限られているんだろうと認識しております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

これが3,700万円で止まっていればいいですけども、これ単調増加でこういうふうに来ているのがここで止まるって保証は何もありませんよね。これが4,000万、5,000万、6,000万になった場合、村長どうしますか。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

そういう仮の話をしてもしょうがないわけではありますが、昨日も申し上げましたが、私が聞いたところでは、それぞれの自治体で社協の重要性ということをしっかり認識しながら、それぞれの自治体がいち早くその経営を支援していくという状況にあることはご理解いただきたいと思います。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

本当にこの問題、正直、取り上げたくないんですよ。また、あんなこと言っているとやられてしまいますので嫌なんですけど、でも、自分で実際に人を使って経営してみた経験から言うと、人件費って必ず無駄がありますよ。特に、社会福祉協議会の在り方だと必ずある。それを、赤字を減らす努力というのをしないということは、やっぱりこれは悪だと思うんですよ、村民に対しての。結局、その分、費用を村の方に押しつければ、子育て世代とかいろいろなことを要望があるけども、そっち削らざるを得ませんよね。そうじゃないですか。

だから、なるべくこの赤字については、圧縮する努力をしていただきたいと、村長がやっぱり言うのが筋じゃないかと。大変な仕事だからいいやさって言えば、これ多分、仮の話っていうけど、ここで止まりませんね。やっぱり認識の差ですよ。さっき私、言いましたけど、これじゃ俺たち給料もらえないよねって深刻さがないですからね、今の社協の役員さんたちに。やっぱり、自分たちが深刻に受け止めないと経営改善もままなりませんので、もう1回はお聞きしたい。というか、ぜひ、社協に経営改善するように言っていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

私は、先ほど申し上げていますが「財政支援」と言いましたが、それについては、もう前提として経営改善を求めた結果としてということでもあります。これまでも求めておりますが、村とすれば直接経営をするわけではありません。社協にも理事会があります。村の職員も1名、理事として出ておりますので、そういう中で、しっかりと経営について経営改善について求めていくと、その立場はしっかり村としても維持していきたいと思っておりますが、それでもなおという場合でおりますので、その辺はご理解いただきたいと思います。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

長々と議論をさせていただきましたが、事の深刻さをぜひ受け止めていただきたいなと思います。

3. スキー場の事業者への対応について

6番 丸山邦久 議員

3番目の質問に入ります。

スキー場事業者への対応についてであります。

8月19日にSBC木島平リゾート株式会社の冬季シーズン運営方針説明会に行っていました。説明を聞く限り、スキー場の運営が上向くとは思えなかったですね。私の素直な感想を言わせてもらえば、正式決定は何もしていないということを説明する説明会でした。こういうふうにする方針、でも、正式決定ではありません。決まり次第お知らせします。この連続でした。

スキー場事業者は、今度のスキーシーズンも大変厳しい経営を迫られることが予想されます。

今年の3月議会の私の一般質問において、産業課長は、私が「救済を考える気はあるのか」という質問をしたところ、「前の質問でも回答したとおり、村として事業者支援に当たるものについては、お話を聞く中で具体的な対応を検討していく必要があると考えております」と答弁しています。

そこで伺います。

1点目、「事業者から話を聞いて具体的な対応を検討する」と言っていましたが、話を聞いたことはあるのか。また、具体的な対応を検討したことはあるんですか。その2点についてお答えください。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

産業課長（湯本寿男）

旧木島平スキー場運営者とも意見交換をしながら、説明会の実施や今後の運営についての情報交換を進めてきました。運営者にも競技スキーの受入れをいただく方針としていただきましたので、それらの運用についても、調整が必要な事項については調整を進めているところです。

ただ、個々のご意見をお聞きし、対応していくことはなかなか難しい状況がありますので、こういった説明会のような場で出たご意見を、村として調整、要望するものがあれば対応すべきと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

「個々の事業者から話を聞くことは難しい」って今おっしゃいましたけども、なんでやらないんですか。これは、村で決めたところに売った結果、起きた問題ですよ。どうしてそのことについて、もっと責任感を持って、事業者のためを思って、直接出向いてでもどういう状況にあるのかっていうことを聞かないんですか。それはなぜですか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

産業課長（湯本寿男）

事業者の方それぞれにつきましても、運営方針等の違いもあると思います。個々にご意見を聞く中で、やはりそれぞれ相当違う意見が出るだろうという想定はしております。

ですので、スキー場運営に対するご意見ということがそれぞれのご意見だと思われますので、こういった説明会の中で出されたご意見について、村として必要なものがあれば対応していくということで考えておりますので、前回の3月の議会でもそういった旨の回答しておりますので、ご理解をお願いいたします。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

信条として、大勢集まった中で、私こんなに困っているんだなんて話は、なかなか出ないと思うんですよ。そこはやっぱり、個別に聞いていくしかないと思います。

だから、直接、事業者に状況を聞きに行くぐらいの努力はやっぱり必要じゃないかと私は思うんですが、産業課長いかがですか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

産業課長（湯本寿男）

今、「SBC木島平スキー場の問題」というお話をいただきました。

ただ、やはり隣のTheきじまスノーパークも村内のスキー場として、昨年から運営を開始しております。そのような中で、やはり2つのスキー場がそれぞれ活性化していくということも最終的な村の考え方でございます。そういったことも含めまして、両スキー場に対するご意見等あればお聞きしたいということで設定をさせていただきました。

さらに、今年度のシーズンでもやはり両スキー場がそれぞれの村のスキー場として、今後、持続的に発展していただけるように、これからも意見交換を行いながら必要な調整はしていきたいと考えております。

ただ、やはり個々の事業者のご意見を伺ってお聞きするという方法も確かに一つは必要なことかもしれないかもしれませんが、やはり、この地域にスキー場を持続させていくということがやはり村の最終的な目標、それで地域活性化を図っていくということが最終的な目標としておりますので、ちょっと上から目線になるかもしれませんが、いろんな場面でご意見はいただければ、私どもの方で対応可能なものについては対応していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

ちょっと消化不良ではありますが、2点目の質問にまいります。

SBCメディカルグループ株式会社に株式を譲渡した際、わが村は事業計画書の提出を求めていませんでした。また、スキー場の事業者に影響が出ないように交渉したようなこともなかったと思います。そのこと自体がこのような事態を招いたと私は考えるんですが、村長のお考えはいかがですか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

産業課長（湯本寿男）

今回の民間譲渡や一連の民営化については、前段、第3セクター検討委員会を設けて、財政の分析、また、議会でも第3セクター改革検討委員会を設置していただき、議論をいただいていたところ

です。コロナ禍、木島平観光株式会社（木島平観光）の運営が大変厳しい状況にあり、国の交付金を活用しながら運営支援をしてきたところです。しかしながら、議会から「今後の財政的支援はいかがなものか」「これで最後しなければ、今回の支援の予算を認めない」といった厳しいご意見をいただき、進めてきた民間譲渡でございます。

木島平観光株式会社自身の資金繰りが大変厳しい状況でありましたので、一刻も早く次の段階に向けた対応に迫られたのは事実でございます。時間的余裕があれば、そのような形も取れたかと思いませんし、今までの経営スタイルを変えない限り、スキー場自体の運営も厳しく、持続的ではない状況だと判断をしております。

いずれにせよ、どの事業者にお願いしたからこうなったですとか、あくまで結果論であります。現状、皆様が全員満足する運営ではないかもしれません。

村とすれば、いかにこれからの運営をしっかりとやっていただくことをお願いしていくことではないかと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

もちろん、これからの運営をしっかりとさせていただきたい、これは私も同じ考えは一緒です。でも、現実問題、問題が起きているんですよ。

議会でも再三再四、事業計画を出してもらえないのかと言いました。

事業計画って簡単に言いますが、やはりこの運営する会社が出てきて、資金計画やら投資計画やら人員計画やらみんな作って、これでやればOKだ、うまくいくよねって思うように作るのが事業計画なんですよ。それをやっぱりもらってないから、どういうふうに運営するかもわからなかった。

結果論はそうですよね。結果論は。

そこに、やっぱりやり方がまずかったんだったらまずかったんで、少し反省していただきたいと思うし、反省ないことには、次でまた同じ失敗しますので、プラン・ドゥ・チェックのチェックです。自分自身のチェックをやっぱりしていただいて、それを次のアクションに活かすようにしていただきたい。

前にも「村長は反省がないから進歩しない」って失礼なことを申し上げたこともありますけども、実際に自分のしてきたこと、結果どうなっているのかってことを本当だったら自分で行くべきですよ。俺がやったことについて、皆さんどうだかって。本当はそう思う。もし、自分で同じ立場だったら不安で仕方ないですよ。みんなうまくやっているかなって。そういうところがあんまり見えないのは、非常に日墓村長の残念な点だなと思います。

重ねて、この問題についてはもうこれ以上言いませんけども、困っている事業者がいるんだったら、自分から出向いて俺がやった結果どうだかって聞いてみていただきたい。それをお願いしたい。

では、3番目にいきます。

実際に、売上げが減少した事業者は大勢います。売上げ減少していないところよりも、売上げが減少したところの方が営業をしっかりとやっていた事業者です。ものすごく一生懸命やっていたところほど、今、苦境に陥っているんです。

そもそも、あまり最初から一生懸命でないところは落ち込みも少ないですよ。知り合いぐらいしか来ませんから。

だけど、自分たちでスキークラブ、大学のスキークラブを呼んでいる。そのお客様にまた来ていただくためにどういう努力をしているか、春になったらアスパラを送り、夏になったら野菜を送り、このシーズンになったらお米を送り、またもう少し過ぎたらリンゴを送る。あるところはそういう努力をして繋ぎとめてきたお客さんなんです。

そういうことを村長はもう少し知ってほしい。それが、スキー場を引き継いだ会社のポールバーンやらせない、それ1本で、そういう努力が全部水の泡になっているっていう事実を村長は知っていただきたいよ。また、知るべきだ。

さっき、湯本産業課長が「大変な状況になっていた」と。でも、それまでずっと村長が社長でしたよね。その経営悪化に対しては、私これでも企業経営していましたんで、村長の経営手腕が発揮されたというか、経営手腕で事態が良くなっているってことは一つもなかったですね。さっきの社協と同じ構造があった。人任せ。やっぱりそういうところが村全体に出てきているような気がしますね。

話、途中になっちゃいましたが、売上げが減少した業者というのはそういう努力をしてくれているんですよ。売上減少分から、材料費、直接原価を差し引いた金額を、私は補償すべきではないのかなと思っておりますが、村長の見解を伺います。

議長（勝山 正）

日臺村長。

村長（日臺正博）

「個々の利用者に対する補償」ということになりましたが、はっきり申し上げまして、全国的には本当に、民間のみならず自治体が関わっているスキー場であっても、廃止とか営業中止というような事例を多く聞いております。そんな中、村では、将来ともスキー場を地域の産業としてしっかり維持継続する、そのことを最大の目的として取り組んできたわけであります。

売上減少分を補償するかどうかということにあります。あくまでも民間譲渡に伴い減少した売上げという観点からしますと、それぞれの営業の仕方もありますので、それは難しいかと思えます。それによって、売上げが減少した事業者の方もありますが、減少については、様々な要因が重なってくると考えておりますので、補償というようなことは考えておりません。自然災害、例えばコロナのように地域全体が大きなダメージを受けている、その場合の補償とは違うと考えております。

先ほど、スキー場の経営のいろいろな話がありましたが、コロナ以前、それ以前からという話がありましたが、はっきり申し上げまして、コロナ前はそれぞれ村の支援等がありましたが、それなりにしっかりと経営ができていたと思えます。

やはり、大きな転換というのは、やっぱりコロナの影響が大きいかと。そのことについては、村民の皆さんにも誤解のないようお願いをしたいと思います。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

こういう問題は本当に面倒だなと思うんですが、誰がSBCに譲渡することを決めたのか。しっかりした調査をやったのか。決算書も頂いていない。会社の信用調査書も私に言われてやっとこ取った。8,000万も払って、一体どんなコンサルを受けたのがちょっと聞いてみたいですよ。

視点として、あのとき村の考え方としては、村民から訴訟を起こされたら困るからという自分たちの保身のための話だったと思えますよ。要するに、訴訟を起こされても困らないような契約書を作

る。だけど、そこに一つ、この地域で働いているあなたの大事な村民じゃないですか、皆さん。頑張っている人ほど、今、困っているってこの状態を見て何も心も痛まないというのは、本当にちょっと困っちゃうなと思うんだけど。そのやり方について、非常に私はまずかったと思っているし、私は根拠があって反対したんですよ。日墓村長に意地悪をするために反対したんじゃないくて、この会社に運営を任せたら、うまくいかないっていう根拠があって言ったわけで。

聞いていただけなかったのはとっても残念だけど、もう少し一生懸命頑張ってきた人たちが報われるような、そういった村にしていてもらいたいと思うんだけど、全然、そういう補償とかっていう気持ちはないですか。もう1回伺います。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

先ほども申し上げましたとおり、今、スキー場をこの地域の観光としてしっかり残す、そのことによって事業者の皆さんのみならず、そこに雇用される皆さんについても経営の安定が図れると、そのことを第一に考えたということでもあります。

その中で、個々に収入が減った、売上げが減ったということがあるかもしれませんが、その辺については、村とすれば、やはり先ほど申し上げました、スキー場の存続を第一に考えたという結果であるということで、言ってみれば、そういう皆さんには申し訳ないんですが、ご理解いただきたいと思っています。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

スキー場が残ることを第一に考えたということはわかりました。

でも、本当にそれでこのまま残っていくと思いますか。その確信はありますか。

議長（勝山 正）

日墓村長。

村長（日墓正博）

その後の経営の在り方についても、村としてスキー場関係者の皆さんからあった要望、大会の誘致であるとか、ポールバーンについては、運営会社に協議をする中で、また少しずつ従来の形に戻りつつある部分もあります。

先ほど、産業課長も申し上げましたとおり、Theきじまスノーパーク、2つのスキー場の兼ね合いの中で、しっかりとこの村の産業として将来とも維持、継続できるようにしていくのが、やはり村としての大きな使命だと思っておりますので、その点については、ご理解いただきたいと思っています。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

今、私は、スキー場が存続していくことについて確信があるかということをお聞きしているんです。今の答弁は、確信はないと受け取っていいんですか。

議長（勝山 正）

ちょっといいかな。丸山議員の質問、若干ずれてきちゃっているんで、通告書にある内容で質問して行ってほしいかなと思います。

6番 丸山邦久 議員

いいですか。ただ、この補償問題ですよ。でも、これ私の考え方ですけど、せっかく、村長が残していただいたんですけども、その村長の思い通りにはならないのではないのかなと思います。いろいろ物議を醸しておるかもしれませんが、こういう状況であることはやっぱり村民の皆さんに知っていただきたいですし、そういうことで、これ以上の質問をしても無駄なようですので、これで質問を終わらせていただきたいと思います。

議長（勝山 正）

以上で、丸山邦久議員の質問は終わります。

（終了 午後2時51分）

議長（勝山 正）

ここで、暫時休憩とします。

再開につきましては、午後3時00分とします。

（休憩 午後2時51分）